

1-1. 熊本市圏におけるP&Rの状況

<P&Rの推進のための取組み>

- ・連携中枢都市圏構成市町村ごとにP&R実施箇所付近で啓発活動を実施
- ・P&R実施箇所にて啓発用チラシの配布等を行い利用者の増加を図る

<事業体系>

事業実施については、連携中枢都市圏構成18市町村協同で取り組む

<連携中枢都市圏構成市町村>

熊本市、宇土市、宇城市、菊池市、合志市、美里町、玉東町、大津町、菊陽町、西原村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、山都町、阿蘇市、高森町、南阿蘇村



平均稼働率
(鉄道)
⇒85.6%

平均稼働率
(バス)
⇒37.4%

1-2. 公共交通に関する市民アンケート結果

<アンケートの概要>

目的：市民が望む公共交通利用促進のための施策等の情報取得

手法：Webアンケート

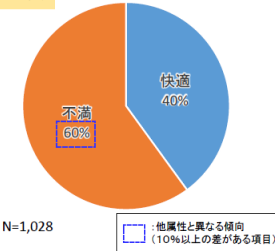
対象：1000人程度

期間：R3.3.19～R3.3.31

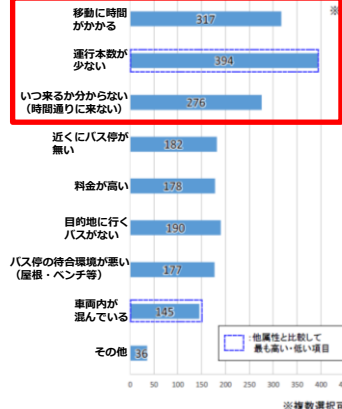
<公共交通（バス）に対する印象>

質問：あなたの公共交通（バス）に対する印象について

バス



印象	人数	割合
快適	411	40%
不満	617	60%
合計	1028	100%

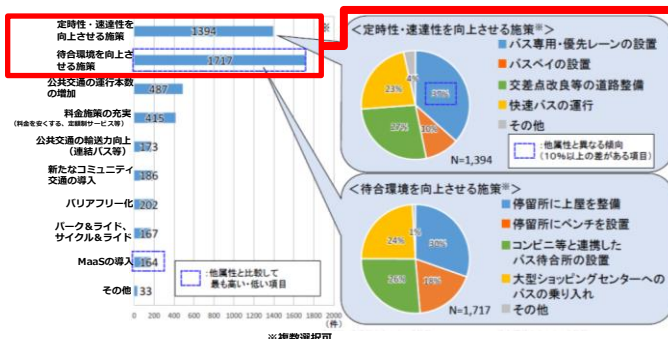


バスに対する印象として、
◆移動に時間がかかる★
◆運行本数が少ない
◆いつ来るかわからない★
(時間通りに来ない)
の3つが突出

★内2つが
時間(定時性)
に関するマイナスの印象

<公共交通を使い続ける、公共交通に転換するために求める施策>

質問：あなたが今後も「公共交通を使い続ける」又は「自家用車利用から公共交通に転換する」ために
行ってもらいたい施策はどれか



行ってもらいたい施策として、
◆定時性・速達性を向上させる施策★
◆待合環境を向上させる施策
の2つが突出

★内1つが
定時性
に関する意見

1-3. P&R推進の検討

<P&Rの現状>

- ・JRや電鉄沿線の稼働率は高いものの、バス営業所等の稼働率は鉄道に比べて低い状況

<アンケート結果より>

- ・バスの印象として、定時性に関するマイナスの印象が上位を占める
- ・公共交通を使い続ける又は転換するために定時性・速達性を向上させる施策を求める声大きい

バスの定時性が低いことが、P&Rの稼働率に影響していることが考えられる(稼働率と定時性との間には相関性)

- ◆公共交通の利用促進または公共交通への転換を図るには、「定時性」が重要なファクター
- ◆バス路線でのP&Rを実施するならば、ある程度定時性が確保された路線(遅延率が低い路線)であれば効果が期待できる

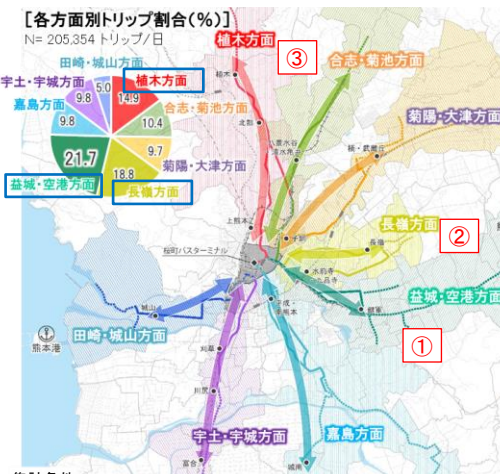
パーク&ライドの推進について

2-1. 中心市街地と8軸沿線の交通状況

<中心市街地と8軸沿線における流動状況>

- 8軸各方面の総トリップ数は、①益城・空港方面、②長嶺方面、③植木方面の順で多い
- 益城・空港方面はバス・電車の公共交通の割合が多く、長嶺方面はバス、植木方面は比較的自動車交通の割合が高くなっている

<各方面の総トリップ数>



集計条件
・基幹公共交通軸に沿うゾーン全て(色が塗られているゾーン)を対象に、方面別に中心市街地と各拠点間の双方方向で遅延率が低い軸は植木方面
・ゾーン単位は、1ゾーン単位
・各方面に重複するゾーン(複数の色が塗られているゾーン)は、両方面に含むよう、集計処理

<各方面計および各方面の手段別割合>

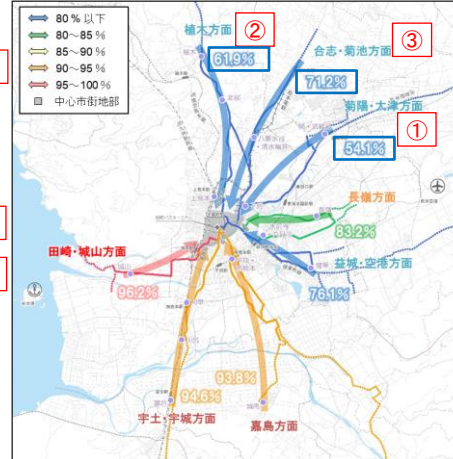


資料: H24熊本都市圏パーセントトリップ調査データ

<中心市街地と8軸沿線におけるバスの遅延率>

- 自動車交通から公共交通への転換が期待できるのは、バスの遅延率が低い軸であることが考えられる
- 各拠点⇒中心部では、①菊陽・大津方面、②植木方面、③合志・菊池方面の順で遅延率が低い
- 中心部⇒各拠点では、①長嶺方面、②植木方面、③嘉島方面の順で低い

<各方面⇒中心部における遅延率>



<中心部⇒各方面における遅延率>



2-2. P&Rの推進候補地区の絞り込み

<P&Rの推進候補地区の選定>

① 中心市街地とのトリップ数

益城・空港方面

長嶺方面

植木方面

② バスの遅延率

候補軸である益城・空港方面、長嶺方面、植木方面のうち、中心部と各拠点間の双方方向で遅延率が低い軸は植木方面

植木方面でのP&Rの実施を検討

※ 公共交通の利用促進については、植木方面だけでなく、他の方面においても取り組みを推進する必要がある

※ 取り組みの実施については、P&R単体ではなく、道路管理者などの関係機関と連携した施策を組み合わせるなど、各方面の課題や特性に応じた対策も検討していく必要がある

(関係機関と連携した取り組み事例)
・バスレーン設置の検討、交差点改良 など

<植木バス停におけるP&R実証実験の検討>

○ R元年11月、植木地域連合会(9地区)及び植木町商工会から商工会隣接の市有地を活用したP&R施設の設置要望

(地元の思い)
・バスが減便となったため、せめてバスが多く通っている所で車でアクセス出来るようにして欲しい
・通勤通学だけでなく、買い物や通院などの日常使いもしたい

(行政の思い)
・自動車から公共交通への転換
・基幹公共交通軸の強化
・植木方面でのP&Rの実施

地元と行政の目的がマッチ

市有地を活用した地域との協働による
パーク&ライド社会実験を検討

